4　学習過程

ACTIVITIES	ALTの役割
1　WARM-UP (1)　GREETINGS (2)　CRISS CROSS	・数人の生徒と個別にあいさつをし、簡単な対話をする。 ・ゲーム形式で、JTLと共に既習の表現を用いて英問英答を行う。 ※　話そうとする意欲を高めるとともに、既習事項の強化を図る。
2　ORAL INTRODUCTION OF THE DIALOG (1)　Q　&　A (2)　SKIT ※　CHECK UNDERSTANDING OF THE DIALOG ①Markは昨日どこに行ったか。 ②何をするためか。 ③阿部先生はどこに行ったか。 ④何をするためか。 3　INTRODUCTION OF THE TARGET SENTENCES 4　ORAL PRACTICE 5　COMMUNICATIVE ACTIVITIES (1)　MAKING DIALOG (2)　PERFORMANCE OF THE DIALOG (3)　LET'S TALK WITH ALT IN ENGLISH	・生徒と「昨日どこに行って、何をしたか」問答する。 ※スキットの内容と関連付けることによりスキットに対する関心を高める。 ・身近な話題についてJTLとオリジナルスキットを演じる。 ※スキットにより新文型を提示する。その際、聞き取りの観点を明確にする。 ・新文型の説明と文型練習をJTLと共に進める。 ・JTLと役割分担をして新文型の練習を進める。 ・JTLを補佐し、生徒のダイアローグ作りを援助する。 ・生徒の発表について賞賛や助言を与え生徒の発表意欲を高める。 ・生徒と英語で自由に対話する。 ※JTLは発表者の評価を行う。

5　授業の概要と考察

(1)　ALTとJTLによるオリジナル・スキット

導入時にQ&Aを実施したので、生徒は課題意識を持って、教師がどんな対話をしようとしているかを興味深く聞いていた。

〈資料3〉オリジナル・スキット

J（JTL）：What did you do yesterday, Mark?
A（ALT）：I went to Aizu.
J　：Oh, did you? Why?
A　：To see Mt. Bandai.
J　：Wow! I went to Daikokuya yesterday.
A　：Why?
J　：To buy a gift for my American friend.
A　：What did you buy?
J　："Furoshiki."
A　：I kuow "furoshiki".
　：You use it like this?
J　：Oh, no.

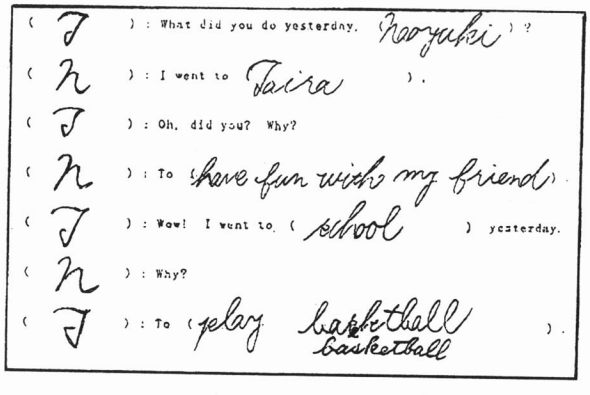
事前の打ち合わせでスキットの内容について検討し、必要な言語材料との関連を十分考慮するとともに、ALTのアイディアを取り入れて実施した。聞き取りの観点が明確になっていたこと、生徒の課題を大切にしたことにより、意欲的に学習に取り組んでいた。

生徒の反応を見ると、スキットを提示する際、ALTとJTLのコンビネーションや身ぶり、動作なども大切な要素であることが分かった。

(2)　プラスワン・ダイアローグの活動

教師が提示したスキットを参考に、ワークシートを用いてペアで取り組むようにした。できるだけ難しい表現を使わないで既習事項を用いて表現するようにし、言いかえのヒントを与えて容易に取り組めるよう工夫した。ALTの援助により、ダイアローグの中に生きた英語を取り入れることができた。

〈資料4〉プラスワン・ダイアローグの作品



発表の段階では、発表したくて挙手するペアが多く、身ぶりを交えながら発表していた。

原稿を持って発表することを認めた結果、生徒の意欲はさらに高まったが、できれば暗記して発表してほしかった。